



東京大空襲70年、二つの集会にとりくんで

1945年3月10日の東京大空襲から70年となる今年、二つの集会に関わり、取り組みました。まずは3月6日(金)夜、浅草公会堂で全国の空襲被害者や遺族らが、「戦後70年・戦争被害のすべて解決を!大集会」を開き、約800人が参加。名古屋の空襲で重傷を負った杉山千佐子さん(99歳)は車椅子に載った姿で「空襲で、私は顔の半分、片腕、足を失った。国は戦争の犠牲者をほったらかしにしないで」と声を上げ、大阪、佐世保、沖縄、の被害者も国に対し、援護制度の立法化を訴えました。東京空襲犠牲者遺族会の星野弘会長は「このままでは死ぬに死にきれない。すべての民間人戦争犠牲者が団結していこう。人間の尊厳と平和を守るため力を貸してほしい」と呼びかけました。米軍による空襲の犠牲者は50万人。戦後、国は元軍人・軍属の総額50兆円を超える年金や恩給を支給してきたが、民間の空襲被害者を救済していません。東京と大阪で被害者が裁判で国を訴えましたが、敗訴。被害者らが議員立法による援護制度実現に向けて全国空襲被害者連絡協議会をつくって取り組み、今年こそ、という決意を込めての集会でした。まとめの発言で小林節慶応大学名誉教授は「いままでこの世界を知らず人生観が変わるほどのショック。多くの人に広げていこう」と述べました。

8日(日)には、開館13周年を迎えた東京大空襲・戦災資料センターの「東京大空襲を語り継ぐつどい」が江東区文化センターで開かれ、500人を超える人が参加しました。体験者の証言では、当時・城東区(現江東区)第一大島国民学校2年生の担任だった田近治代さん(88歳)が、もんぺ姿で登壇。ご自分は千葉県市川市に住んでいて空襲を逃れたが、クラスの子ども全員を失いました。空襲の惨状の中を人や馬の焼死体につまずきながら子どもたちを探し回ったようすを昨日のことのように語り、「この恐ろしい体験が原点。70年間日本に戦争がなかったのは憲法9条があったから。なんとしても守っていききたい」と締めました。同センターを訪れた子どもたちの学習発表は、第五大島小学校6年生が「戦争の歴史を学び、平和の大切さを胸に刻みたい」と感想を述べ、日大豊山女子高校の放送部が、沖縄修学旅行で「ひめゆり記念館」を訪問し、体験者が高齢化のため、語り部の話が聞けなくなることから、戦争を知らない世代がどのように受け継ぐかということから、戦災資料センターを訪ね、東京大空襲を学んだことをビデオでまとめて発表し、会場では大きな励ましの拍手がひろがりました。

俳優の岩崎加根子さんが、「東京大空襲で心をこわされた子たち」と題して、詩を朗読し、参加者に深い感動を与えました。最後に、同センター館長の早乙女勝元さんが、「戦争の惨劇を学ぶということが、戦争への道のプレーキになると信じている」と話して、同センターの役割と協力を訴えました。

重い内容の二つの集会でしたが、戦後70年の今年、改めて「戦争する国」にはさせない決意を固めたものでした。
(代田5丁目・高岡 岑郷)

憲法記念のつどい 5月16日(土) 午後1時半～

講演:「憲法九条・集団的自衛権をめぐる動き」(仮題)

白神 優理子(しらが・ゆりこ) 弁護士

若手弁護士の会 八王子合同法律事務所所属

落語:「落語が禁止された時代があった」(仮題)

立川 談之助(たてかわ・だんのすけ) 師匠

会場: 日本ナザレン教団下北沢教会 世田谷区代田6-7-21

(下北沢駅・下車・西口より北へ・徒歩約5分)

計
画
中
た
だ
今

4月10日に計画をしていました、彰古館の見学は、都合により中止させていただきます。

福島を忘れるな！ 再稼働を許すな！

3・8 NoNukesDay に参加

東日本大震災と福島原発の重大事故から4年目を迎える8日午後、毎年開かれている首都圏反原発連合／さようなら原発1000万人アクション／原発をなくす全国連絡会の3団体主催の「0308 反原発統一行動」に参加した。

午後1時から、日比谷野音での集会。福島から三人の発言者。あれから4年になろうとしているのにいまだに復興のめどが立っていないことを痛感させられた。原発労働者の厳しい状況を聞かされたが、長い時間かかる廃炉に向けての難しさを思った。ついで、被災者でもある宇宙飛行士の秋山豊寛さんが「怒り」のスピーチ。実感のこもった熱弁であった。

1年半にわたって1基も原発が動いていない状況にあせる政官財の「再稼働の動き」が鹿児島・川内、福井・高浜を突破口として画策されている。福島のつらい経験を取り入れようとしない動きに怒りを覚え、集会で発言された地元の人たちと連帯して、今後引き続き再稼働をやめさせていかないと。

国会前では、各界からのスピーチが行われた。「安倍首相は再稼働をやめろ」「やめられないなら首相を辞めろ」の声が響いた。「コントロールされている」とか「世界一厳しい審査基準」などと実態を無視した言葉を平然と使いながら、再稼働ありき、とでも言わんばかりの首相の動きは、「積極的平和主義」の言葉の下で憲法九条を踏みにじり、閣議決定に基づいて「戦争をする国」づくりを進めている動きと重なって来ている。国民世論に反した政治の動きは、根っこでは同じなんだと思う。個々の課題は、一つ一つ離れているのではなく、結びついていることにみんなが気づき始めているように思える。参加者は2万2千人とのこと。

(代田2丁目・伊東 宏)



集 会 等 の 紹 介

3月21日(土) 午後1時20分～5時 九条科学者の会発足10周年のつどい

「安倍改憲の本格化と科学者の役割」

第I講演 「安倍政権の改憲暴走と九条運動の課題・展望」

講 師 小森陽一氏 (東京大学大学院教授・「九条の会」事務局長)

第II講演 「戦後70年——『戦後社会』日本の岐路」

講 師 広渡清吾氏 (専修大学教授・日本学術会議元会長)

会場 東京・文京区民センター2A (地下鉄「後楽園駅」または「春日駅」下車)

連絡先 九条科学者の会 (電話 03-3811-8320) 参加費：300円

4月3日(金) 午後2時～

奥平康弘さんの志を受けつぐ会

参加費：1000円

会場：調布市グリーンホール (調布市小島町2-47-1 京王線・調布駅下車、徒歩三分)

発起人：梅原 猛、大江 健三郎、澤地 久枝、杉原 泰雄、鶴見 俊輔

暉峻 淑子、樋口 陽一、山内 敏弘、山口 二郎、渡辺 治

日本国憲法 (抜粋)

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～